

古史通火

古史通

			二〇	和書門
		五	六	
九	五	三	八	
冊	架	函	號	類

庫	文	閣	內	
四		二〇		和書
函		二		
一	五	六		
九	冊	八		
米		號	類	

內閣文庫	
番號	和 20268
冊數	5 ( 2 )
函號	141 207



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



古史通卷之一

浅草文庫

筑後も後又位下源朝臣君義探

我國<sup>アノツチ</sup>のけし神天地のけにせり<sup>イテ</sup>あまを神れ名

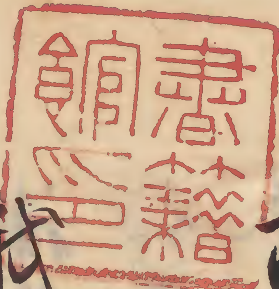
一<sup>トコ</sup>國<sup>タチノ</sup>常<sup>ミユト</sup>立<sup>ス</sup>る<sup>コト</sup>と<sup>クニ</sup>す<sup>クニ</sup>又<sup>クニ</sup>ハ<sup>ソコ</sup>國<sup>タチノ</sup>底<sup>ミ</sup>立<sup>ス</sup>る<sup>コト</sup>も<sup>クニ</sup>し<sup>クニ</sup>し<sup>クニ</sup>

其<sup>クニ</sup>次<sup>サツチノ</sup>を<sup>ミユト</sup>ハ<sup>クニ</sup>國<sup>タチノ</sup>換<sup>ス</sup>て<sup>ス</sup>る<sup>コト</sup>と<sup>クニ</sup>し<sup>クニ</sup>ス<sup>クニ</sup>ハ<sup>クニ</sup>國<sup>タチノ</sup>換<sup>ス</sup>て<sup>ス</sup>る<sup>コト</sup>と

し<sup>クニ</sup>し<sup>クニ</sup>ス<sup>クニ</sup>ハ<sup>クニ</sup>其<sup>クニ</sup>次<sup>サツチノ</sup>を<sup>ミユト</sup>ハ<sup>クニ</sup>豊<sup>タチノ</sup>野<sup>ノ</sup>立<sup>ス</sup>る<sup>コト</sup>と<sup>クニ</sup>す<sup>クニ</sup>又<sup>クニ</sup>ハ<sup>クニ</sup>豊<sup>タチノ</sup>

國<sup>タチノ</sup>主<sup>ノ</sup>と<sup>クニ</sup>す<sup>クニ</sup>と<sup>クニ</sup>豊<sup>タチノ</sup>野<sup>ノ</sup>と<sup>クニ</sup>す<sup>クニ</sup>と<sup>クニ</sup>豊<sup>タチノ</sup>野<sup>ノ</sup>と<sup>クニ</sup>す<sup>クニ</sup>と<sup>クニ</sup>豊<sup>タチノ</sup>野<sup>ノ</sup>と<sup>クニ</sup>す<sup>クニ</sup>

と<sup>クニ</sup>す<sup>クニ</sup>と<sup>クニ</sup>豊<sup>タチノ</sup>野<sup>ノ</sup>と<sup>クニ</sup>す<sup>クニ</sup>と<sup>クニ</sup>豊<sup>タチノ</sup>野<sup>ノ</sup>と<sup>クニ</sup>す<sup>クニ</sup>と<sup>クニ</sup>豊<sup>タチノ</sup>野<sup>ノ</sup>と<sup>クニ</sup>す<sup>クニ</sup>





さるは古より記ある國之常々立るとするはわかやせしハ

常國トコクニは立給ひし津事シユトとしよがてし又ハ國を立

とやせしハ其語言の辨せしものはよく美ま

あるよしありしあきせよは音相色るくやまるり後語、音相色するともよとの皆これに似たる也

常國を昂常世國也古より見新治國筑波國

茨城國仲國ムバシキ久自國ナカ高國タカ大の地すくはるを常世

國ヒタカといふ又ハ日高見國ヒタカといひし也今ハ常陸國

昂北也ハ國ハ日神乃立給ひし地なり今ハ日之國

コロネテラニタニ

ありしを見えし其後今字を撰ひ假用り及

しハ常陸國と云ふこれハ道路おるし郡郷境

を相接りぬ也と云舊事本記日本記常陸國國シニサツキ接植る

コトハ又國接立ると云す其語言の辨せし

して狭の國小なりしは事としよとて狭國ハ

古須志國スシる来由國上海國カシマウツカロニ伊其國イニ武社國ムサノ桑麻國クマニ

阿波國アハ印波國ニバ下海上國シモウツカシ北地昂今の上総下総カシマウツカシモウツカ



ありて後小其國の上小北を刻て上毛野

カニツケノ

カニツケノ

下毛野乃國とありしを後又上野下野とあり

ありしを高子記古子記續日本記新撰姓氏錄あり

ホノ見之

後代より及び常陸上総上野之國を守はる

初親王イリス末の流化人任之例といふ其本據あり

事ありんと知るなり類聚三代格藏系抄小

春田小北よりして神の名を傳へあり神小

よりして北名を傳へありとて小北に傳へし

は小の神號たるをイモスヒチニ一に北に傳へし

〜

次小神ウヒチよりイモスヒチニ流去者あり妹イモスヒチニ流去者ありとあり

去根妹イモスヒチニ流去者ありとありイモスヒチニ次小神よりイモスヒチニ流去者あり

妹大旨イモスヒチニ遣さるイモスヒチニとありイモスヒチニ二枚の神をイモスヒチニ大旨イモスヒチニ流去者あり

妹大旨イモスヒチニ流去者ありとありイモスヒチニ大旨イモスヒチニ道妹大旨イモスヒチニあり

とありイモスヒチニとありイモスヒチニ次小神よりイモスヒチニ面イモスヒチニ是イモスヒチニ妹イモスヒチニ流去者あり

ありとありイモスヒチニ二枚の神をイモスヒチニ吾イモスヒチニ至イモスヒチニ根イモスヒチニ流去者あり妹イモスヒチニ流去者あり











日本記一説の字冊の字あはれ用ひらき

一其の義又詳ありん 古事記ハ伊弉諾伊弉册

式本也伊弉素波伊弉素波伊弉素波伊弉素波 又伊弉諾伊弉册

冊二枚の神ハ青檀根の字也も又一説ハ

沫高の伊弉諾の字也も又一説ハ

伊弉諾の字也も又一説ハ

一ハ一説也一説ハ伊弉諾の字也

青檀根の字也一説ハ伊弉諾の字也

青檀根の字也一説ハ伊弉諾の字也

伊弉諾の字也一説ハ伊弉諾の字也

妹と稱也一説ハ伊弉諾の字也

兄と稱也一説ハ伊弉諾の字也

妹兄と稱也一説ハ伊弉諾の字也





を二代とて宇比地迹妹須比智迹とて代とて角枝活枝と  
四代とてこれより以下ハ日本記に見えり一而ハお同  
又舊事記古事記ホの記に見えり一角枝の神とヤと  
其之よりいふ所の地名よりしては歸おる一とあるハ  
常陸國凡去記に於る角枝とハ常陸國多向郡ホあり  
此の是也後よひて思ふと一ハ常陸國とハ常陸國とハ  
山乃ゆり也活枝神ハ角枝神乃妹乃命と見えり

とて神小國クニ狭植ササとて一ハ在田事記ハ

國常まざるを又國狭まると國狭植とて

ヤセとてとるさして古事記ハは神のゆハ

とて一とて重んじしハ國使ふみとて一ハ同

くさる事取小の事とて一ハさる事とて

とて一とて古語拾遺小同國之ゆハ伊弉諾

伊弉册ノ二神也とて一ハよのこさるて

とて一とて上つて一ハ世の事とて一ハさる事

其ノ敬を闕し也と見えり一ハ此也

神世七代とて一ハ事ハ舊事記古事記

日本記ホ見えり一ハ皆同とて一ハ上世

より言嗣とて一ハありとて一ハ父とて

天神七代地祇五代と云ふ事小なりては其の  
困史ありとみえりて事ありては此れ爲るに  
小天神地祇亦其本記を云ふ事ありては  
其天神本記亦其本記を云ふ事ありては  
其事を云ふ事ありては二神ハ世ハ此の事  
素戔嗚大己貴亦れ神の内事を云ふ事あり  
此の事ハ天神七代地祇五代と云ふ事あり  
人神合小なりて事ありては事ありては

事あり

亦天地初て判別し付は高天原は成神乃名  
天沛中主事可事事事事事事事事事事事  
乃神也事事事事事事事事事事事事事事  
其次を天之原事事事事事事事事事事事  
一又天鏡事事事事事事事事事事事事事  
中一其次をハ天八十美魂事事事事事事  
高天原事事事事事事事事事事事事事事





釋し不也凡我國乃古書を讀しは古語ふりて  
其義を解るし今字ふりて其義を釋し  
多し以高乃字讀て多河と云ふ古より  
不の爲國常陸國多河國常陸國昂今常陸國  
多河郡地是也天乃字古より記し後て河麻と  
しよと讀しき上古倍小河麻と云ひは海也  
河每と云ひは天也天亦稱して河麻も云ふ  
其語言の將せし也原乃字讀て播羅と云ふ

上古倍し播羅と云ひは上也云ふ古語多河  
麻能播羅と云ひは多河海と云ふ地と云ふこと  
古語に播羅と云ふは上也と云ふ日本記は川上の字を讀て  
箇播羅と云ふこと今と常陸國海上の天浦天浦と云ふ天原  
乃右の地 天沛中主と云ふは天乃字讀て海每と  
しよ沛とはす河と云ふ人をさしし語也天と云  
沛としよ其云ふ事を取らるる乃河也  
中乃字讀て多河と云ふ古より仲國仲國  
多河國常陸國昂今常陸國多河郡の地是

那河記の古

王とは昂者也け神那河國の美くろを

あり翁説小天ノ市仲るる古く美也といひ

是也古記は比神ハ後小伊勢國度今那山國

りつる祭る也トヨケチホカニ此豊受大神ハ伊事也といひ

豊受大神ハ法苑在記大田令  
傳神也古流記の事ふり

可美葦年イハカニ乃乃四乃るるハ

古より祀るる宇麻志阿勢阿伎比古延神イハカニ

志るせり可美漢て于麻時イハカニといふ見  
記在記

日本記了見へ一伊事流伊事母二柱る神

伊言小可美少男可美少女ホレ語ある上古

時小其人を称嘆するハ河也といへり美系流カヒ  
梅貞の云也

葦年アヒカニハ私記ハ前正の美也といへり美少乃

須釋小葦年乃はのらこたひりといへり

古乃男漢て比古ヒコ反ヒコといふ見  
記古乃祀ホ大穴年イハカニ

延神チをホとテ穂ホとテ見命ミコトとヒコ日子ヒコ延チとヒコ祀

事コト何ナニりシ古語コト小日子ヒコといふ年トシ延チといふ

事コト何ナニりシ古語コト小日子ヒコといふ年トシ延チといふ

事コト何ナニりシ古語コト小日子ヒコといふ年トシ延チといふ

らきしと日事記もきし母しきし也は神の  
事草牙と心く野ヤ一する六子と云洋  
事天八下天之降天合天八百日天八十事  
鬼ホレ神野亦止其美洋多以高をを  
云云古の記しる事野原日神と云る事  
は神ハ古ハ高國ハ立ぬいし事其國ハ高今  
常隆國多河野北ハ也ハの字後て美  
よる事乃字を後むの語ハ同ハ事云後て

武須臾ムスヒと云果古語ハ武須臾といひし事

親スノムツと云事親神スノムツと云事睦神スノムツも見

之スノムツ古語拾遺寸方ハハ神乃也

齋子スノムツ元ハ事云事又ハ高事云といひ又ハ事云事  
いし中を後て事云事又ハ高事云といひ又ハ事云事  
上古ハ神野ハ事云事又ハ高事云といひ又ハ事云事  
今字を後て事云事又ハ高事云といひ又ハ事云事  
事云事又ハ高事云といひ又ハ事云事  
治ハ事云事又ハ高事云といひ又ハ事云事  
乃事云事又ハ高事云といひ又ハ事云事  
乃事云事又ハ高事云といひ又ハ事云事  
乃事云事又ハ高事云といひ又ハ事云事







アノスホコ

天沼矛アノスホコの字を其能月乃古ノ字と讀

と記す其字も漢て智とすふと

其語同く凡今古は日本記書之に

まゝにあり也此記の古者玉以謂ひ

智と氣と凡古者玉とて日本記書之

智ノ字を氣と記す所とありと見

義一とて後世亦及びて之玉メマホコ詳

あや凡智詳乃智を玉と記す事ハ意

一讀と美祿也不必以讀玉ノ飾と

乃讀矛を揚て言依りあひと後

軍を命する也常の揚の義入也

疏アノスホコ天沼橋ハ天の字讀て河麻と

浮橋ハ連舟コホ也舟とて浮橋と

いひ連海コホノ戰艦とすふと

許言昆コホハ舟とて畫とされ舟也

のしひハ能其昆コホとて舟乃

つゆさくあろ洞也たよハ秋のた具のまか

かてしつれすかりち我國入る故なる古語

の洞も洞洞も花 能能基呂ハ音事記ハ既叙

と盧とさるる家日記これより進みゆる

の字実あれも其語ハお同ハ自注と云

とハ此處ハ昂今該處玉西南の端とあり

倍於其其右也ハ秋記ハハえとるハ天は

を見まのハ音事記ハ天環字と既叙盧

為乃よまゆハそハ國中乃天柱と云ハハ

右ハ也天の字漢で阿毎と云ハハ

板乃字漢で數ハ音事記ハ古語ハ波と云

ハハ氷キハ也也音事記ハ音事記ハハ

ハ標と云ハハハ凡我國ハ俗也地を古ハ

ハ其標をハハ音事記ハ音事記ハハ

小建ハハハハハハハハハハハハハハハ

穂峯ハハハハハハハハハハハハハハハ









次小野子とてそのひそに居る素素を寫さるるを  
見しと見えし中らまじとて徹しす事をも  
案るるより言の緒を嗣る語嗣るに  
出てるも信まらざるに法て其説を以て  
是より法例の日は記述より法例と  
する其地未詳按てふ日は記述より素  
素例法例と云ふ事なり文のりさるる法例  
と云ふ法例よりあるを以て名と見えしなり。

此一節ハ天祖伊弉諾伊弉册乃神より法例  
葦原の地を征す事と云ふことありてハ  
二柱乃神舟師とていふる海より思ひ  
し中より一柱小野の地より其の神  
連成いひし事をも終るる自らより法例  
天祖所賜乃寶文を建て其地を垣多  
し事れ標ししことありて其の神より  
事をも案るる地を指しし事ありて男神ハ

みづらした軍よおとす女祓ハ右軍ヲ將う  
しつては將を討ちて其軍を合せて  
をさかぬむし物めいしふ右軍を只及て  
交りて将く進とて志づいた軍後まて  
期を先ふ二程の程の過ひのふ事を候ひ  
あひしつともすては前後お接らる其戦利  
たしつてふふき返の民を上層略し海  
乃一か處をぬるのこせしつら其上層略せ  
下るよのを致をし其好し下る水將を無業て  
はがふ其兵をりて夫の原ふをり候へ  
りしつふま事ろて

天神布フヤト麻ニ尔ニト相ウラ幸ナハ女メ先ニ以テ不カ良シ亦  
をコりテ言フをウたシしテ詔スあハいハるを詔ス  
その天ノ伊ハ利ヲをシたル事ヲ見ル乃チしテあハらハお  
のて伊ハ利ヲ治スるを阿ハ那ニ途ニ夜ニ志スわシるを  
也ト愛シるを阿ハ那ニ途ニ後ニ示ス阿ハ那ニ途ニ











都佐國波多國トサノハタノクニ此地昂コト今イマ佐國也サノクニナリ

依別ヨリワケハ其國神クニノカミの名也ナヲイフ凡其國神クニノカミ乃名ナヲイフ實

とよみ女子メノコ稱ナヅケ比古ヒコとい別ワカとよみ男子オノコ

稱ナヅケ男オノコを稱ナヅケと別ワカといイフ中ナカハ其系シヅメ系シヅメ叙シヅメ後ノチとよみ

後皆ノチニハ孔子コノチ傳ツケ也ナリ源ヒラ佐國サノクニハ古コノ此コノ之ノ國クニ

昂トヨミ今イマ此コノ國クニ也ナリとよみトヨミ之ノ傳ツケ乃ナリ不ズ詳シ

天アメノ意イ許コト呂リ別ワケハ其國神クニノカミ乃名ナヲイフ也ナリ統ツケ稱ナヅケ也ナリ

古コノ此コノ西海セウカイ之ノ國クニ乃ナリ地チ也ナリ統ツケ稱ナヅケ也ナリ名ナヲイフ也ナリ

古コノ此コノ筑志國ツクシノクニ坐マ系シヅメ米メ多タ國クニ未ミ乃ナリ地チ今イマ之ノ筑ツク前マエ

筑ツク後ノチ未ミ此コノ國クニ昂トヨミ也ナリ白シロ日ヒ別ワケハ其國神クニノカミ名ナヲイフ

也ナリ豐トヨ國クニ古コノ之ノ豐トヨ國クニ今イマ佐國サノクニ前マエ國クニ比ヒ多タ

國クニ未ミ乃ナリ地チ昂トヨミ今イマ之ノ豐トヨ前マエ豐トヨ後ノチ未ミ此コノ國クニ也ナリ

豐トヨ日ヒ別ワケハ其國神クニノカミ之名ナヲイフ也ナリ肥ヒ國クニ古コノ此コノ火ヒ國クニ

松マツ津ツ國クニ未ミ眾シユ國クニ乃ナリ菘ス國クニ今イマ天アメ草クサ國クニ未ミ

地チ昂トヨミ今イマ此コノ肥ヒ前マエ豐トヨ後ノチ未ミ此コノ國クニ也ナリ速ハヤ日ヒ別ワケ

其國神クニノカミ乃名ナヲイフ也ナリ日向國ヒナカクニ昂トヨミ今イマ日向ヒナカ大隅オホソミ







多きくものに強てを後を化きりと見あり

るくもありきるへくは八例とひりく

ふし又ハ教とあるるふと見えり祓代巻抄本

既小國とせき強く其後小海神名大綿見ヲタノオホワタツミ

神水ノ神名ハ速秋津日子神妹速秋津比賣ハヤアキツヒメ

凡十柱乃神の神とせき之の其速秋津日子速秋

津比古神木ノ祓名ハ之能智神山神名ハ太ヲヒヒコ

津見神野神名ハ鹿至比賣神赤名ハツミミノノ

野推神ホ十二柱をせむ其大山津見神能推ノツチノトウエニリフメハシラ

神山能小くて持別て八柱乃神をせむトリワケ

日本記古語拾遺ホ小ハ男女二柱乃神海川山ホをせむ

其神をせむと見ありツリ

大綿見神又ハ抄巻命ととと古記乃能智比ワタツミノヒコト

古神又ハ級長は命とと古記乃能智比ニヤカツヒコノ

又ハ向く西祀神とと古記乃能智比見又ハ大山ツクハシノチンチホアノチン

神神ツクシノともなるははれ神をツクシノとツクシノとツクシノ  
 けホる神池ニツられし事け付居たりて又その祀  
 をききしる職をわらふ令事とてしせらるるは  
 けホる神と六河海山跡ホの神とを其祀をききしる職  
 と六河海山跡ホを祀る事とよふ其職をききしる事と  
 多しハ帝の深昂位乃初小祀于山川編詳神チ  
 としつるれし書又祭記以馭マ其神チ周礼太  
 ちと見えし其後同しつる事なり

かくて伊弉諾伊弉册二柱乃神其小日神を  
 けしぬしチホヒル大日靈貴とすけし法子にハ  
 板乃小天上アミノカラ事とてし天に法をたて  
 送りし事とて小月神をけしし事ツキヨミ存後  
 事とす又八月夜見とて月ツキ見との事と  
 出小又日配ツキてとてしツキとて天に送り  
 ちし事チハリはる事スとてしツキとてし  
 世神天下アメノシタをたてし事とてしツキとてし







其神迹有りて又有神命はき及

縣ノ守り祀るる中に見えし記し縣

之東は神の後りありて記し縣

てとありて又高野元日本記に於て

天照太神乃泊とて葦原中國に於て

保命神ウケモチノの降ふ事ありて

これ後乃配目て天事とありて

事ありて一カとて伊弉諾夜命

之月夜見神社とありて

此又配目とありて

中事記の速ハヤ素玉馬とありて

建速須佐タケハヤス之男神とありて

之とて神イカサノ名イカサノ

其神乃伊弉諾イカサ一妻イカサノ妻イカサノを

其神乃伊弉諾イカサ一妻イカサノ妻イカサノを

其神乃伊弉諾イカサ一妻イカサノ妻イカサノを

うとよるたれて櫻濱で佐波信よる夏月の  
 流多るるとやと見えたるを十千ハ磯なる不哭は  
 とよらしあわぬ女皆散きるとよるこハ  
 尚書小冊まじ傲りるを教へらひて  
 けれ入恵と務まらるる後  
 冊入神火神斬過実智とてしむふりて  
 遂小神返すしれハお雲ふまの巻園よの  
 由比屋ふよる花よのふは浮園遊るる  
 村小葉カシのり古俗神ハカシをカシハ花の  
 小以花カシのり又カシ幡旗を用いて祝祭  
 祭まじり  
日本記これ齋事元古事記小よりてまをさるる  
 是してはあハ齋了元古事記小見へし  
 きこれハ齋了元古事記小見へし  
 ありては齋を願きし  
 ありし事  
 今こふはけれ乃かこれ  
 地をさ方して齋了元古事記小ハ法火祭の  
 法月を併と考へては下ハ

火神斬過実智ハ又ハ火ホノに焼ヤキ連ハヤ男オノ命ミコト神又

ホホヤケスミノ 薪田事記よ。又ハ火ノ焼畹古神又ハ

火ノ加貝土神又ハ火ノ彦彦彦ノ目ノ又火結神

ノ延彦土彦畹只下小洋也伯老畹ハ古ノ

波伯畹帛个伯老ノ玉也比波女ノ其ノ處

所未詳紀伊畹ハ古ノ紀伊畹熊野畹ホノ地

帛个紀伊畹也熊野畹个ノ年豊部ノ

属也或説ハカカ馬村ノ彦彦畹社ノカカ

畹是伊弉册ノ神也其地也其ノ東あり

湯宮畹ノ彦彦畹ノカカノカカノカカノカカ

伊弉册ノカカノカカノカカノカカノカカ

以テ花ノハ膳讀ノカカノカカノカカノカカ

ノカカノカカノカカノカカノカカノカカ

伊弉册ノ神カカノカカノカカノカカノカカ

記ノ見ハカカノカカノカカノカカノカカ

彦彦ノカカノカカノカカノカカノカカノカカ

伊弉册ノ神其妹ノ神を子ノ一カカノカカ



見<sup>ミ</sup>畏<sup>カソレ</sup>みくすみやん<sup>三六</sup>此<sup>ニ</sup>を<sup>ル</sup>る<sup>ル</sup>あ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>び<sup>テ</sup>

妹<sup>イモ</sup>乃<sup>ニ</sup>神<sup>カミ</sup>其<sup>ノ</sup>見<sup>ミ</sup>辱<sup>ハジ</sup>さ<sup>ル</sup>あ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>び<sup>テ</sup>恨<sup>ウラミ</sup>み<sup>ル</sup>

黄<sup>ヨロヒ</sup>泉<sup>フシ</sup>醜<sup>シ</sup>女<sup>メ</sup>て<sup>テ</sup>追<sup>ツ</sup>く<sup>ル</sup>あ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>び<sup>テ</sup>其<sup>ノ</sup>八<sup>ヤチ</sup>雷<sup>カミ</sup>神<sup>カミ</sup>小<sup>コ</sup>

千<sup>チ</sup>六<sup>ロク</sup>百<sup>ヒャク</sup>乃<sup>ニ</sup>黄<sup>ヨロヒ</sup>泉<sup>フシ</sup>軍<sup>ツ</sup>副<sup>ツ</sup>て<sup>テ</sup>追<sup>ツ</sup>く<sup>ル</sup>あ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>び<sup>テ</sup>

追<sup>ツ</sup>ま<sup>リ</sup>り<sup>リ</sup>公<sup>キミ</sup>す<sup>ル</sup>あ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>び<sup>テ</sup>千<sup>チ</sup>川<sup>カハ</sup>の<sup>ノ</sup>石<sup>イシ</sup>を<sup>ツ</sup>黄<sup>ヨロヒ</sup>泉<sup>フシ</sup>

比<sup>ヒ</sup>良<sup>ラ</sup>坂<sup>カ</sup>了<sup>リ</sup>川<sup>カハ</sup>寒<sup>サム</sup>そ<sup>シ</sup>其<sup>ノ</sup>石<sup>イシ</sup>中<sup>ナカ</sup>に<sup>ニ</sup>坐<sup>マ</sup>て<sup>テ</sup>對<sup>トイ</sup>

立<sup>タ</sup>て<sup>テ</sup>は<sup>ハ</sup>わ<sup>カ</sup>ふ<sup>事</sup>ト<sup>ト</sup>を<sup>ツ</sup>度<sup>タク</sup>乃<sup>ニ</sup>所<sup>トコロ</sup>伊<sup>イ</sup>比<sup>ヒ</sup>

冊<sup>ソ</sup>乃<sup>ニ</sup>非<sup>ヒ</sup>お<sup>シ</sup>我<sup>ガ</sup>形<sup>カタ</sup>留<sup>ル</sup>命<sup>ノチ</sup>也<sup>ヤ</sup>の<sup>ノ</sup>字<sup>ジ</sup>訓<sup>クニ</sup>ハ<sup>ハ</sup>二<sup>ニ</sup>程<sup>ハジ</sup>の<sup>ノ</sup>神<sup>カミ</sup>巡<sup>メ</sup>取<sup>リ</sup>の<sup>ノ</sup>

あ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>び<sup>テ</sup>乃<sup>ニ</sup>汝<sup>ニ</sup>國<sup>クニ</sup>人<sup>ヒト</sup>車<sup>クルマ</sup>一<sup>ヒト</sup>日<sup>ヒ</sup>小<sup>コ</sup>千<sup>チ</sup>改<sup>カ</sup>を<sup>ツ</sup>使<sup>シ</sup>殺<sup>ス</sup>ん

と<sup>ト</sup>ま<sup>シ</sup>い<sup>ハ</sup>し<sup>テ</sup>伊<sup>イ</sup>比<sup>ヒ</sup>乃<sup>ニ</sup>汝<sup>ニ</sup>乃<sup>ニ</sup>神<sup>カミ</sup>は<sup>ハ</sup>お<sup>シ</sup>我<sup>ガ</sup>形<sup>カタ</sup>使<sup>シ</sup>殺<sup>ス</sup>ん

汝<sup>ニ</sup>乃<sup>ニ</sup>神<sup>カミ</sup>と<sup>ト</sup>吾<sup>ガ</sup>一<sup>ヒト</sup>日<sup>ヒ</sup>小<sup>コ</sup>五<sup>イ</sup>百<sup>ヒャク</sup>者<sup>モノ</sup>を<sup>ツ</sup>立<sup>タ</sup>て<sup>テ</sup>し<sup>ト</sup>

乃<sup>ニ</sup>汝<sup>ニ</sup>國<sup>クニ</sup>人<sup>ヒト</sup>車<sup>クルマ</sup>一<sup>ヒト</sup>日<sup>ヒ</sup>小<sup>コ</sup>千<sup>チ</sup>改<sup>カ</sup>を<sup>ツ</sup>使<sup>シ</sup>殺<sup>ス</sup>ん

上<sup>ウ</sup>雷<sup>カミ</sup>乃<sup>ニ</sup>伊<sup>イ</sup>比<sup>ヒ</sup>乃<sup>ニ</sup>汝<sup>ニ</sup>乃<sup>ニ</sup>神<sup>カミ</sup>は<sup>ハ</sup>お<sup>シ</sup>我<sup>ガ</sup>形<sup>カタ</sup>使<sup>シ</sup>殺<sup>ス</sup>ん

乃<sup>ニ</sup>汝<sup>ニ</sup>國<sup>クニ</sup>人<sup>ヒト</sup>車<sup>クルマ</sup>一<sup>ヒト</sup>日<sup>ヒ</sup>小<sup>コ</sup>千<sup>チ</sup>改<sup>カ</sup>を<sup>ツ</sup>使<sup>シ</sup>殺<sup>ス</sup>ん

其<sup>ノ</sup>乃<sup>ニ</sup>汝<sup>ニ</sup>國<sup>クニ</sup>人<sup>ヒト</sup>車<sup>クルマ</sup>一<sup>ヒト</sup>日<sup>ヒ</sup>小<sup>コ</sup>千<sup>チ</sup>改<sup>カ</sup>を<sup>ツ</sup>使<sup>シ</sup>殺<sup>ス</sup>ん

乃<sup>ニ</sup>汝<sup>ニ</sup>國<sup>クニ</sup>人<sup>ヒト</sup>車<sup>クルマ</sup>一<sup>ヒト</sup>日<sup>ヒ</sup>小<sup>コ</sup>千<sup>チ</sup>改<sup>カ</sup>を<sup>ツ</sup>使<sup>シ</sup>殺<sup>ス</sup>ん

乃<sup>ニ</sup>汝<sup>ニ</sup>國<sup>クニ</sup>人<sup>ヒト</sup>車<sup>クルマ</sup>一<sup>ヒト</sup>日<sup>ヒ</sup>小<sup>コ</sup>千<sup>チ</sup>改<sup>カ</sup>を<sup>ツ</sup>使<sup>シ</sup>殺<sup>ス</sup>ん

つて伊弉諾乃神は吾月志許以年志許以夜

採國キメナクニしつてあつりし伊弉乃神ミミを

之ひて筑紫日向タチハナナチトの橋小門乃アハハ波伎系

ゆりしつて禊ハラフ扱しつる何又キステも脱棄キカハラフし

伊弉乃神スニキも若しおとし化かしつる又伊弉乃

神カミ通しカミ筑紫疏小カミの死カミす

伊弉乃神カミも若しおとし化かしつる又伊弉乃

神カミ通しカミ筑紫疏小カミの死カミす

伊弉乃神カミも若しおとし化かしつる又伊弉乃

神カミ通しカミ筑紫疏小カミの死カミす

伊弉乃神カミも若しおとし化かしつる又伊弉乃

神カミ通しカミ筑紫疏小カミの死カミす

伊弉乃神カミも若しおとし化かしつる又伊弉乃

神カミ通しカミ筑紫疏小カミの死カミす

伊弉乃神カミも若しおとし化かしつる又伊弉乃

神カミ通しカミ筑紫疏小カミの死カミす









去りしれんや今うふまをせしむるにやして次

行時冊神祇退りしむるに後小行時流る神

祇系日向橋山根系下橋しむるに

友乃沖目しては命ふりたる神名天照大神

神右乃沖目しては命ふりたる神の名月讀

命善五才流る中流行時小森川大神といふ

神鼻を流る河よりなる神の名速事馬言

出雲國熊野許能事なるに

流るに白洞流とるなるに

又日要なるに右の沖目とる洞流とるなるに

けしむるに神とるに

て美属麻州可利尔なるに

とるに

同乃字を流るに

あはよるに

冊乃祇乃なるに

白洞流流るに麻州美能の事とるに美属麻州可利尔ハ高事小頑那

同乃字を流るに日本記流るに

あはよるに

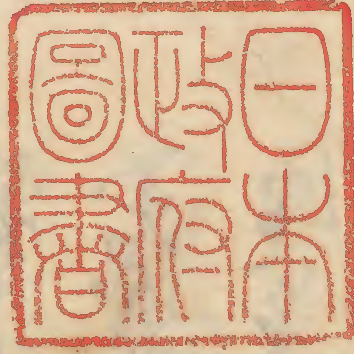
冊乃祇乃なるに











とまのちの夜良比は上古の語に逼る  
事をおこしにせ



